

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

平成30年度 兵庫県農業気象技術情報第8号 (1～2月情報) について (送付)

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲	全県共通	<p>1 生育 土づくり肥料(資材)及び有機物などを施用して土づくりに努める。堆肥は秋冬に投入した方が、次年度の地力窒素として効果的である。 秋すきをしていないほ場では、早急に耕うんし、稲わら・大豆殻等の腐熟を促進する。</p> <p>2 病虫害 カメムシ類、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ等の越冬密度を少なくするため、あぜ草の管理に努める。 イネ縞葉枯病(媒介虫:ヒメトビウンカ)については平成30年10月4日付「病虫害発生予察技術情報第1号 イネ縞葉枯病の防除対策について」を参照のこと。 http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/30gizyutul.pdf</p>	
麦	全県共通	<p>1 生育 (1) 気温が高いため、生育は進んでいる。幼穂形成はやや早まる可能性がある。</p> <p>(2) 播種が遅れたところでは、茎数不足が懸念される。</p>	<p>1 生育 (1) 麦踏みは、ほ場が乾燥している時に、節間伸長期までに数回行い、分けつの促進と凍害防止を図る。特に暖冬時に凍害を受けやすい「ふくほのか」や「せときらら」では実施する。 ほ場が湿った状態で麦踏みすると、トラクターの車輪跡が残り、かえって湿害を助長する。 排水溝は、水が溜まらないように手直しを確実にし、常に排水口に水が流れるようにする。</p> <p>(2) 茎数不足を補うために、通常の施肥に加え、つなぎ肥として1月中に窒素1～2kg/10aを施用する。</p>
キャベツ	全県共通	<p>1 生育 12月上旬までは気温が高く推移しており、生育が早まる可能性がある。</p> <p>2 鳥獣害 1～3月は、ヒヨドリ等による食害が多くなる。</p>	<p>1 生育 結球期以降は凍霜害を受けやすくなる。雨が多い場合や急な気温変化の際には裂球にも注意し、収穫は適期に行う。</p> <p>2 鳥獣害 鳥害が予想される場合は、ネット被覆等の対策を行う。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
果樹	全県共通	<p>1 生育 凍寒害や雪害の発生防止に努める。</p> <p>2 病害虫 越冬病害虫の密度を下げる。</p>	<p>1 生育 敷きわらや伸びた草等は、果樹園内の気温を下げるので、敷きわらは霜害危険期を過ぎてから行う。 クリ、ブドウ、モモ等において、耐寒性の劣る幼木のせん定は、厳寒期を過ぎてから行う。 ・クリ：春先の低温被害の対策として、幼木(2～4年生)への株ゆるめ処理等を行う(特に水田転換園は留意する)。 ・イチジク：稲わら、アルミ蒸着フィルム等で被覆を行う。 ・青ナシ：粗せん定を実施し、枝への積雪を少なくする。また、棚の点検を行い、不良箇所を補修するとともに、必要に応じて中柱を追加する。 ・カンキツ類：耐寒性の劣る幼木や品種、未収穫樹に、不織布やこもで樹全体の被覆を行う。</p> <p>2 病害虫 病害虫の被害果、枝及び落葉は、焼却あるいは園内からの持ち出しを行う。またマシン油乳剤や石灰硫黄合剤による薬剤防除とともに、粗皮削り等、耕種的な対策を組み合わせ、越冬病害虫の密度を下げる。</p>

◎水稲・麦の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)」を参考にすること。
※本情報は、12月25日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報(12月22日～1月21日)

[平成30年12月20日 大阪管区气象台発表]

【概要】

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、低い確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

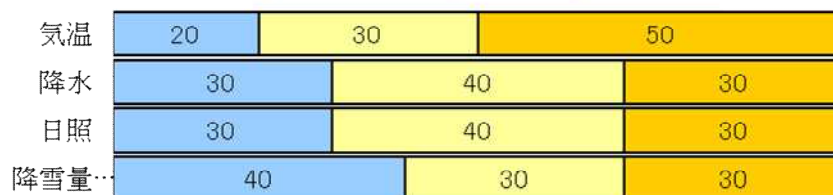
【確率】

○気温、降水量、日照時間及び降雪量

【近畿地方】

■低い(少ない) ■平年並 ■高い(多い)

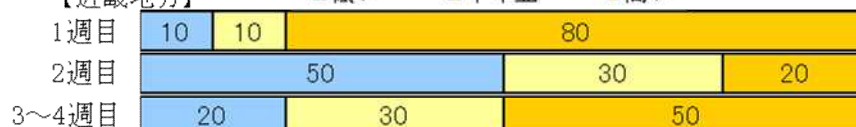
(単位:%)



【近畿地方】

■低い ■平年並 ■高い

(単位:%)



(2) 近畿地方の向こう3か月予報（1月～3月）

[平成30年12月25日 大阪管区気象台発表]

【概要】

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。近畿日本海側の降雪量は、少ない確率50%です。

1月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%です。

2月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、高い確率50%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

3月 近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、高い確率50%です。降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

【確率】

○気温

【近畿地方】	□低い	□平年並	□高い	(単位: %)
3か月	20	30	50	
1月	20	30	50	
2月	20	30	50	
3月	20	30	50	

○降水量

【近畿日本海側】	□少ない	□平年並	□多い	(単位: %)
3か月	40	40	20	
1月	40	40	20	
2月	40	40	20	
3月	30	30	40	

【近畿太平洋側】	□少ない	□平年並	□多い	(単位: %)
3か月	50	30	20	
1月	40	40	20	
2月	40	40	20	
3月	40	40	20	

○降雪量

【近畿日本海側】	□少ない	□平年並	□多い	(単位: %)
3か月	50	30	20	

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い（少ない・平年並・多い）の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間（1981～2010年）における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「病害虫発生予察情報」 <http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
※「病害虫発生予察技術情報第1号イネ縞葉枯病の防除対策について」はH30年1月4日以降に掲載されます。
- ・「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」 http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078) 341-7711 (代表)
農産班:主作・機械担当 内線 4074
農産班:野菜担当 内線 4054
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部 TEL (0790) 47-2435
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790) 47-2410
農業技術センター 病害虫部 TEL (0790) 47-1222
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079) 674-1230
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799) 42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html

(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)